

平成 22 年 1 月 7 日

新宿区 長

法 人 名 特定非営利活動法人日本グッド・トイ委員会

所 在 地 東京都新宿区四谷 4-20-1

(フリガナ) タダ チヒロ

代表者氏名 理事長 多田 千尋



事業実績報告書

新宿区協働推進基金条例施行規則第19条の規定により、下記のとおり報告します。

記

1 助成対象事業

事業名	閉校した小学校を利用した、“木育”推進イベント 「おもちゃフォーラム」の開催
実施日時又は期間	2009年 11月7日、8日 10時～16時
対象者の範囲及び人数	乳幼児から中学生までの子を持つ家族を中心とした新宿区民など 約 2,000 名
事業内容	おもちゃや遊びを通して、子どもたちが豊かな自然素材を体験し、親しみを もつことができるようになる2日間のイベントを実施。 ・世界の積木で遊んで学ぶ！木育ひろばがやってきた！ ・木工・木育玩具創作 ～ おもちゃの寺小屋 ～ ・ボランティアが伝える木育遊び ・おもちゃと遊びの縁日 ・おもちゃ病院 ・地域ひろばイベント
具体的な活動状況	メインイベント報告 ●世界の積木で遊んで学ぶ！木育ひろばがやってきた！ ヒノキの間伐材でできた積み木2万ピースを用意。数多くのピースを使うことで、親子で自由に作品づくりを取り組むことができた。 また、積み木の専門家によるレクチャーも実施。子どもは上手な積み方を学び、親は子どもへの声のかけ方を学ぶ。親の褒め方次第で、子どもたちがノビノビ楽しく遊べるということに気づいてもらった。良質なヒノキ材でできた積み木で遊ぶことで、その手触りや香りに大人は心癒され、子どもたちにも木の質感や重さからくる心地よさを存分に味わっていただいた。（体育館ステージ及びステージ前） ●木育玩具創作 ～ おもちゃの寺小屋 ～ 木工の専門家による手づくりおもちゃ教室を開催。



	・流木オブジェを作ろう 親子30組計60名参加 ・お人形のベッド 親子20組計40名参加 (2F コミュニティルーム1にて) ●ボランティアが伝える「木育遊び」 ぬくもりあふれる木のおもちゃを活用し、親子で楽しく遊べる場を提供した。ボランティアが行う木のおもちゃを使っのパフォーマンスが大変好評だった。観覧者をパフォーマーとして飛び入り参加させるなど、眺めるだけでない、双方向での遊び方、楽しませ方を多くの方が体験した。(3F ライブラリーにて) ●おもちゃ病院 シニア層のおもちゃドクター6名が壊れたおもちゃを修理。2日間で30件以上の修理依頼があった。(体育館にて) ●おもちゃと遊びの縁日 50名以上のおもちゃの専門家がブースを出展。木や竹など自然素材を活用してのおもちゃ作りや、木のからくりおもちゃの作品展示などが行われた。(体育館にて)
事業の成果	●自然やものづくりの実感体験 子どもたちが普段は触れることのない木の文化を体験することで、自然や地方のものづくりを身近に感じ、人と自然とのかかわりを考える機会を作った。 ●日本の木の技の体験 玩具の創作を通じ、様々な道具や材料を活用し、古くから継承されている先達の「知恵」や「技」を伝えられた。また、創意工夫の楽しさ・自らの手を使うことへの興味をひきだした。 ●遊び主導子育ての推進 親子がただ遊ぶだけでなく、そこに積み木遊びの専門家が入ることで、親が子どもへの声のかけ方などを学び、子どもと一緒に楽しむ知識や演出力などを身につけていただけた。遊び主導の子育ては、親の心をも穏やかに健やかに育ててくれるだろう。

2 助成対象事業費内訳（実績）

※ 内訳は、できるだけ「単価×数量」で示してください。

※ 1万円以上のものについては、領収書（写し可）を添付してください。

収入	経 費	積算根拠（内訳）		金 額
	団体負担金	2009 年度予算		572,695 円
	参加費・資料代等	(参加費：無料) ブース出展料 @1,000 × 19 = 19,000 " @1,500 × 31 = 46,500		65,500 円
	その他の収入			0 円
	協働推進基金助成金	助成金申請額		500,000 円
	計			1,138,195 円
支出 （助成の対象になる事業費の内訳）	費 目	決算額	内 訳	
	会議費	91,875 円	会議机レンタル（3 日分@525 × 95 台 + 往復運送費 42,000） 91,875 円	
	宣伝費	372,451 円	チラシ製作費一式 73,500 円 チラシ印刷費（@2.41 × 30,000 部） 72,300 円 チラシ発送外注費（区立幼・保・小学校児童配布用及び 100 箇所、3,000 名に対して） 226,651 円	
	リース費	0 円		
	消耗品費	145,000 円	木製玩具購入@4,500 × 10 個 = 45,000 木製玩具購入@5,000 × 20 個 = 100,000	
	謝礼	209,999 円	講師謝礼@10,000（1日×8時間）× 1 名 = 10,000 " @11,111（1日×8時間）× 5 名 = 55,555 " @20,000（2日×8時間）× 5 名 = 100,000 " @22,222（2日×8時間）× 2 名 = 44,444	
	人件費	120,000 円	@4000 円 × 6 名 × 5 日間 = 120,000 円 従事者：6 名 （高橋聡太、長山真弓、関口大二郎、井上弘美、四方田希実、鈴木さとみ） 従事時間 5 日（イベント当日 2 日 + 準備・設営 3 日）× 8 時間	
	材料費	50,000 円	ワークショップ① @800 × 30 人分 = 24,000 円 ワークショップ② @1300 × 20 人分 = 26,000 円	
	交通費	0 円		
	その他諸経費	100,000 円	ワークショップ開催費（@50,000 × 2 日） 100,000 円	
助成対象事業費（小計）		1,089,325 円		

余 剰 金	0 円	
助 成 対 象 外 事 業 費	48,870 円	ボランティア弁当代① 23,790 円 ボランティア弁当代② 25,080 円
事 業 総 額		1,138,195 円

3 助成事業の成果と課題

評価のポイント	自己評価
事業を計画した当初に決めた課題について、どこまで達成できたか。	計画通り、課題解決へ向けての試みは行うことができた。ただ、予想よりも若干参加者が少なかったのが残念であった。
地域にどのような効果があったか、又は今後見込まれる効果は何か。	・地域の子育て力アップの効果 ・当日・準備にボランティアに参加いただいた。ボランティアははじめてという方も多く、今後市民活動の担い手として今後の成長が見込まれる。
新たに気づいた課題は何か。	木工教室がイベント開始と同時に埋まってしまった。創作をしたいと意欲のある子どもたちが、予想を上回った。
理解者や支援者が広がったか。	大きく広がった。 イベント参加者はもちろんだが、設営及び当日ボランティアとして参加してくれた80名近いボランティアたちからの満足度も高かった。
事務局の執行体制は十分だったか。	十分であった。
今回の事業を発展させた新たな事業としてどのような事業が考えられるか。	区内の幼稚園・保育園などの従事者へ向けての“木育”研修や、児童館などへの“木育”玩具の貸出など、区内の教育・福祉施設との連携。
その他	

4 活動の成果

* 事業の成果物（冊子など）又は、事業の開催時の写真など提出できるものがある場合は添付してください。

* 参加者の意見なども報告してください。